

62(青札⑰) 夜をこめて 鳥の空音は はかるとも 世に逢坂の 関はゆるさじ 清少納言

意味: 夜も空けていないのに、ニワトリの声まねで門を開かせようとしてもそれでは函谷関の番人はだませても私は逢坂の関をあけて出ていきませんよ。

1 よをこめて とりのそらねは はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ	2 よ と は よ せ	3 よをこめて とりのそらねは はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ 「この中に動物がいます。何ですか。」
読みます。 4 よをこめて とりのそらねは はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ	読みます。 5 よをこめて とりのそらねは はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ 「そらね」を漢字に直すとっ。	この中に動物がいます。何ですか。 6 よをこめて 鳥の空音は はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ 「そらね」を漢字に直すとっ。
とりですね。	とりの「そらね」とは、何でしょう。「そらね」は漢字に直すことができます。どんな漢字が当てはめてみましょう。	「そらね」とは、「空の音」とかきます。実際には鳴いていない、うその音ということですね。
7 よをこめて 鳥の空音は はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ 「はかる」とは、悪巧みをするという意味です。ニワトリの鳴きまねでわるだくみをするということですね。どんな悪巧みだと思えますか？ 近くの人と話してみましょう。(答えはまだ言わない)	8 よをこめて 鳥の空音は はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ 「あふさかの関」。これは、他の百人一首にも出てくる、有名な場所です。何という歌か知っていますか？	9 これやこの ゆくもかへるも わかれては しるもしらぬも あふさかのせき (逢坂の関)  せみまる で有名な、「これやこの」の歌です。ここに、「あふさかのせき」は出てきました。「逢坂」には、逢うという漢字が使われています。ここから、「逢坂の関」をこえると、男女が結ばれるという意味ができました。

10  清少納言	11  清少納言	12  清少納言
作者の清少納言です。	彼女は、ボーイフレンドと一緒にいたかったんです。「ニワトリが鳴いたから」と、ボーイフレンドが早めに帰ってしまったんです。もっと一緒にいたかったのに早く帰られてしまったので、「あの鳥は、なきまねでしょ。そういえば、中国の函谷関(かんこくかん)というところでも、鳥のなきまねでだまして、門を開いたという話もあったそうだしね。」と返しました。	するとボーイフレンドは、「いやいや、僕の場合は、関は関でも、あなたと苦難を乗り越えて結ばれる「逢坂の関」でありたいなあ。」と返したんですね。
13  清少納言	14	15
そうしたら清少納言は、今の「よをこめて」のうたを返しました。「鳥の鳴きまねで私をだまそうとしても、逢坂の関はゆるしませんよ！」と、怒りの歌を送ったんですね。		
16	17	18